

【外国語・小6・「Let's think about our food.」①】

本時のねらい

オリジナルフードに入っている食材やその産地などについて、自分の考えや気持ちを含めて紹介したり、質問し合ったりすることができる。

ICT活用のポイント

近隣小学校の児童とオンラインでつながり、オリジナルフードの紹介を通して交流することで、多様な他者とコミュニケーションを図る場面や状況を作り出すことができる。

【つかむ】

本時のめあてをつかむ
「お互いのことをよりよく知るために、
オリジナルフードを紹介しよう。」

【追究する】

オンラインでオリジナルフード
の紹介をし合う。

【まとめる】

本時の振り返りをする。

事例の概要

- 同じ中学校に入学する予定の近隣小学校児童とオンラインでつながり、交流することで、「互いのことを知り合う」という言語活動の目的を自分事として捉え、伝え合う必要感をもつ。
- 様々な食材の名前や産地、栄養グループの英語表現を全体で練習する。その後、ペアでオリジナルフードに入っている材料を紹介し合う。
- オンラインで交流を行う状況であることを踏まえ、相手に伝わるような工夫を意識した言語活動を行う。

【事例におけるICT活用の場面】

- オンライン上の交流会を設定することで、同じ中学校に入学する予定の近隣小学校2校を含めた3校の児童が同時に言語活動を行うことができる。
- オリジナルフードを紹介する際には、ICT端末で作成したプレゼンテーションソフトを活用して、相手に視覚的に分かりやすく伝えるような工夫をする。

【外国語・小6・「Let's think about our food.」】②

【事例におけるICT活用の場面】

プレゼンテーションソフトを用いた ペア練習



オリジナルフードを分かりやすく紹介するために、イラストや文字を載せた思い思いのプレゼンテーションソフトを作成、活用する。

必要に応じて教科書も併用



プレゼンテーションソフトに記載した英語表現が正しいか、教科書を参考にしながら確認、修正している様子が見られた。

オンラインで他校と交流



オンラインでのコミュニケーションでは、普段以上に相手の反応を確認しながら伝えたり、リアクションをしながら聞いたりすることが大切であることに気付くことができた。



発表後、質問をし合うことで、オリジナルフードの紹介にどのような情報を加えるにより分かりやすい内容になるのかを考え、次時以降の学習につなげていく。

○本時は単元末の言語活動に向けた中間発表としての交流活動であった。実際にオンラインで交流を行うことにより、画面越しのコミュニケーションで配慮することを確認したり、伝える内容にどのような情報を加えるとよいかを児童自身が考えたりすることができた。

○イベントのような活動になってしまわないように、オンラインで交流する目的を、指導者と児童で共通理解しておくことが大切である。

○オンラインで交流の場を設定することにより、いつもと違う言語活動の場面や状況が創出できる。そのため、いつも以上に相手意識をもった表現の工夫ができる。

○初めは緊張したり恥ずかしがったりする様子も見られたが、徐々に慣れ、いつもと状況の違う言語活動を楽しんでいた。また、単元末で再度行うオンライン交流に向けて、自己課題を発見し、今後の学習につなげていくための手立てとなった。

【活用したソフト】

ウェブ会議システム、学習支援ソフト